

鶴見区区政会議 平成29年度第2回防犯・防災部会

1 日時

平成29年9月27日（水） 19時00分～20時36分

2 場所

鶴見区役所 4階 402会議室

3 出席者

（委員）

宗宮部会長、山下副部会長、田中（泰）委員

（区役所）

野村副区長、小川地域活動支援課長、秋山地域活動支援課長代理

前田地域活動支援課担当係長

4 議題

1. 平成30年度鶴見区の取組みの方向性について
2. その他

5 議事

開会 19時00分

○前田地域活動支援課担当係長 それでは、時間となりましたので、始めさせていただきます。

改めまして、こんばんは。雨の降る中、本当にお足元の悪い中、お集まりいただきましてありがとうございます。それでは、鶴見区区政会議、平成29年度第2回防犯・防災部会を開会いたします。

私、本日の司会を務めさせていただきます地域活動支援課担当係長の前田でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、これより議事進行を宗宮部会長にお願いいたします。部会長、よろしく

お願いいたします。

○宗宮部会長 部会長の宗宮です。本日、このメンバーでの最後の部会ということで、参加者としては少ない、寂しくて残念なんですけれども、濃い議論ということで、いつものようにお願いしたいと思います。

それでは、議題1、平成30年度鶴見区の実施の方針について、事務局から説明をお願いいたします。

○前田地域活動支援課担当係長 それでは、説明させていただきたいと思います。

座って、説明させていただきたいと思います。お手元の資料1を見ていただけますでしょうか。まず、地域、関係機関と連携した防犯対策事業から説明したいと思います。

これまでの取り組みといたしまして、区民一人一人の防犯意識の向上、及び防犯環境整備によります街頭犯罪の減少をめざして取り組んでまいりました。

また本年度の取り組み実績といたしましては、平成26年度から実施しています防犯カメラの設置ですが、これから30台の設置を予定しております。また平成24年度から取り組んでおります防犯灯の設置につきましても、20基の予定をしております。

次に昨年度の防犯・防災部会でご意見をいただき、今年度初めての事業といたしまして、防犯プレートの設置を50枚行ってまいります。

また、防犯バナーの設置につきましても、昨年度の区政会議部会でご意見をいただきまして、区役所前の照明灯に7基の設置を図ってまいります。この防犯プレート、防犯バナーにつきましても、現在作業中でございます。防犯カメラ、防犯灯につきましても、作業中でございますので、よろしくをお願いいたします。

次に平成24年度から始めております、警察署、地域と連携しました区内防犯一斉行動の実施ですが、これも昨年度の部会でご意見をいただきまして、警察署に連携を依頼しております。今年度9月現在ではございますが、警察署の連携は、3地域で行っております。榎本、今津、茨田南地域で行ってまいりました。また、今年度につき

ましては、これ以降も警察署と連携を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

次ですが、自転車前かごのひったくり防止カバー取り付けを、月に一度、12回行っております。

次のツーロックの日、啓発キャンペーンは、区の庁舎前玄関で、月に一度、26日にティッシュなどを配布いたしまして、啓発を行っております。

また、ホームページやフェイスブック、ツイッターでの情報発信につきましても警察と連携し行っております。特に7月は特殊詐欺が多く発生し、警察署から、情報が入り次第、ツイッターやフェイスブックで区民の方への注意喚起を行ってまいりました。今後も警察と連携して行っております。

次に現状課題です。街頭犯罪は減少傾向にございますが、自転車盗の占める割合が依然として多くございます。また区内防犯一斉行動につきまして、各地域の防犯推進委員さんが中心となって活動いただいておりますが、さまざまな方が参加して、より広がりのある防犯活動が行われるための支援が必要かと思っております。

次に平成30年度の取組みの方向性ですが、引き続きより効果的な防犯環境の整備といたしまして、防犯カメラの設置、防犯プレートの設置、防犯灯などの設置を行ってまいります。また警察署や地域関係機関と連携しました啓発活動の実施につきましても、引き続き行っております。ホームページやフェイスブック、ツイッターなど活用したタイムリーな情報発信に務めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

それでは次のページの、地域関係機関と連携した交通安全対策事業のご説明をさせていただきます。

まず、これまでの取組みといたしまして、正しい交通ルールの周知、啓発、また交通安全に対する意識の向上と交通事故件数の減少を目的として取り組んでまいりました。具体的には今年度、子育て層や高齢者、幼稚園児への交通安全教室や研修会の実施を行っており、引き続き行っております。

警察署、区内の学生と協働した自転車のマナーアップキャンペーンにつきましても開催しております。スケアードストレート学習の実施ですが、今年度につきましては、11月18日土曜日と11月19日の日曜日に行いたいと思います。時間はどちらも14時から16時の間ですが、11月18日土曜日につきましては、今津公園の運動場で、また11月19日、日曜日につきましては、鶴見緑地の第2運動場、関目自動車学校の東側にありますグラウンドで行ってまいります。

現状課題といたしましては、鶴見区の交通事故による死傷者の約3割が、自転車がかかわっております。それを受けまして、放置自転車も含めました、自転車マナーの向上を図る必要があると考えております。

次に平成30年度の取組みの方向性といたしまして、年齢層に合わせました交通安全教室の実施を引き続いて行ってまいります。またスケアードストレート学習の実施を引き続いて行います。交通安全教室用の記録媒体の作成をしまして、スケアードストレートのDVDをつくり活用します。

また引き続きまして、警察署、地域、関係機関などと協働いたしました啓発活動を行います。

一度、ここでスケアードストレート学習の様子を、現在ユーチューブでアップしておりますので、ご覧いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

(ユーチューブの上映)

今後またユーチューブやツイッターなどで情報発信をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次のページの区民の安全・安心を担う総合的な防災力の強化ということで説明させていただきます。

まず、これまでの取組みでございますが、地震や風水害等の災害に対する自主防災力の向上と自助、共助意識の醸成を図るということを目的に行っております。また、区民や区役所、防災関係機関等の連携によります災害に強いまちづくりを推進してま

いりたいということで、取り組んでまいりました。

具体的な取組み実績といたしまして、平成22年度から行っております「鶴見区安全・安心フェスタ」の開催、「安全・安心フェスタ」は今年度は、12月10日、日曜日に行う予定でございますので、よろしくお願いいたします。

また平成25年度から開催しております防災競技会、「つるみんなピック」を、来年の3月18日の日曜日に鶴見緑地で行う予定にしております。これにつきましては、地域防災連絡会などで、いろいろな方のご意見をいただきながら、開催してまいりたいと思っております。

次に、各地域にトランシーバーの配備ということで、これにつきましても昨年度の、この部会におきまして、ご意見をいただきまして、地域の防災力の強化ということで配備してまいります。年内に配備を行いますので、よろしくお願いいたします。

次に災害発生時にフェイスブックやツイッターでの情報発信に取り組んでおります。具体的には、過日9月1日に大阪市の総合防災訓練で、ツイッターでの災害情報の発信の訓練を行っております。現状課題といたしましては、各地域で、自主防災の取組みが行われておりますが、防災意識のさらなる向上が必要であると考えております。また区民一人一人の防災意識の向上が必要であります。

3点目としましては、区災害対策本部と地域の防災組織との連携の強化を図る必要があると考えております。

次に平成30年度の取組みの方向性といたしまして、防災訓練などの支援や、防災資機材の配備によります地域防災力の向上を図ってまいります。

また具体的には、地域防災連絡会でご意見をいただきながら、来年度の資機材の配備につきまして行ってまいります。

次に、「つるみんなピック」ですが、地域防災リーダーの育成と、認知度のアップに貢献できているかと思えます。

次に、多くの区民が参加し、防災について学ぶ場の提供といたしまして、「安

全・安心フェスタ」につきまして、引き続き行ってまいります。ホームページやフェイスブック、ツイッターなどを活用しましたタイムリーな情報発信を今後も行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○宗宮部会長 ありがとうございます。資料が3ページありますので、それぞれについて意見交流していきたいと思います。

1枚目の、防犯カメラについては、更新の取組みが結構早くからされているということは、更新も必要になってきているということで、現在まで新規につけるといような対応が中心やったと思うんですけども、そういったことを見越した対応というのにも必要かなというふうに思うんですけども。1ページ目にかかわって、何かありますか。

○山下副部会長 一番見るとこなので、こういう区民に対して、訴求力があるし行政のここを頑張れば意味合いがあるかな。この部分については、防災については頑張してほしいというところと、ちょっと話がずれるかもしれないんですけども、うち新興住宅といいますか、新築の家ができてきて、町会が組織化されてない中で防犯灯がつけられてない実体があるんですよ。これは地域からアプローチかけているんですけど、なかなか対応してくれない部分があって、行政の方からちょっと手助けしていただけないかなと思ったりもするんですけど、要するに、5、6軒が、ぼこっとへこんだところに、電柱が2本ぐらい建っていて、そこに本来ついてればいい防犯灯がついてないというところですね。ちょっと見受けられるので、防犯灯を地域から依頼していただければ、付けますよみたいなところを、アプローチかけてもらうとかしてもらおうと、逆に地域も助かるかなというところもあります。それぐらいですかね。

○宗宮部会長 意見交流含めてしていきたいと思っています。うちもちょっと規模の大きな工場が新築住宅ということで分譲されて、いきなり、来はった人たちが町会加入前の話として、そういう話が出ていました。結構、待っているんやなくて、

どないかしてほしいという声だけ上がって、とりあえず町会に入ってくださいという
ようなやりとりがあったんですけども、まずそこで、うちんかが防犯の方が言っ
ていたのは、とりあえずつける努力はするけども、今すぐそないして問題なんやったら、
門灯をつけてくださいというのを、まずうちの防犯の方から、そういう働きかけ、し
はりました。その後、町会に入ってくれはったんで、町会長通じてということはあっ
たんですけども、やはり、行政からのアプローチだけで、逆についちゃうと、区役
所に言って行ったら、してもらえるんやというようなことで、自分たちの、まあ言っ
たら、街区を自分らで守っていくということで、そんなん手っ取り早くできる、今す
ぐできるか、対策が何かというのと、町会に入って、そういう動きはつくっていく
もんやねんというようなこと、それはやっぱりポイントとしても大事なかなという
のが、七福温泉の横の会議で、結構そんなやりとりで、がんがん言ってはったんで、
引っ越してきはった人がね。逆にその切り返しの中で、おもしろい展開になったとい
うのは、去年の展開でありました。

○山下副部長 言ってこないし、僕が逆に心配するんですよ。言ってきはったら、
そういうふうにしたらそれを次にできる。

○宗宮部長 待ってはるというのは、ちょっとね。

○山下副部長 待ってはるというか、声を上げるということをしな。声を上げ
ればいいということが理解、理解というかそういう意識がないというかね、やっぱり。
多分地域が関心ないのかなというのがあります。自分の住んでいるところを良くしよう
という気持ちがあったら、多分やんやん言ってきはると思うし、自分の住む、こうい
うところに自分が引っ越してきたという、それだけの意識やったら、その環境を変え
ようという意識が多分ないのかなと思いますね。

○宗宮部長 ぼこっとへこんだ形、段々なところですね。まず、防犯灯のことと
一緒に、ごみの出し方で、まずもめはったんですよ、中で。それで、町会が結果的
には、そこで絡んでいったということがあったんですけど。たまたま住んではる人は、

割かし元気な人やったということが、あったんやと思う。一般的には、黙ってはりま
すけどね。

○山下副部長 なるほど、難しいですね。

○宗宮部長 区役所からのアプローチの仕方は、どのようなことが考えられ
ますかね、そういう場合。

○秋山地域活動支援課長代理 本数が、限られているというところていくと、し
かも20本ぐらいなんで、これが例えば、100本とかぐらいいけるのであれば、も
うちょっと大々的に、どなたが見てもという状態にできるのかなと思うんですけど。

○山下副部長 設置する場所を決めるというのは、地域からの要望に対してとい
うことですね。

○秋山地域活動支援課長代理 そうなんです。それでいくと地域活動協議会を通
じてということで、地域行政連絡会ではお願いを毎回しているんですけども。山下副
部長がおっしゃっていただいているように、それぞれも知っていて、持っていき
る制度にできないかということていくと、本当はもっとホームページなり、いろんなど
こで、区の補助設置できるんですよというのを出せたらいいですけどね。今でも実際
に20本以上希望としては出てきていますので、大々的に、どうしたらいいかなと。

○山下副部長 枠を取ればいいんでしょ、極端な話。地域から要望が上がってき
た分に対しての枠を10本、区民から直接上がってきた場合のための10本という、
とりあえず当初の枠をつけといて、年度末になってきたら、こっちが余って、こっ
ちが足らんというところで、食い込んでいくとかね。

○宗宮部長 どういうふうな手だてでそういうことが、改善されていくのかとい
うことについては、広報の必要がありますね。もう一つ、暗いところで、工場が閉め
はって、ますます真っ暗になったというところで、声は上がるんやけど、逆に町会が
かんだら、その町会の悪口言うつもりはないんですけど、大変やねんと、なかなか付
きまへんでという話から始まってしまって、その町会に対する不信感みたいなやつを、

逆にその地域の人を持たはって、逆に福祉会館へ直接言ってきはるといようなやりとりがあったりなんかもして、なかなか町会の方も、どう対応したらええのかというのが、もう一つわからへんで、町会に言うて来られても無理でっせみたいな対応を町会長がしていたというようなところもあったりなんかしてね。僕は新しい住民が出てきたときに、どう対応していくのかということでもあるやろと思うんですけども、要するに町会設置の街灯と、大阪市設置の街灯と、それぞれの対応が、どういうふうになっていくんかということについて、もうちょっとわかるような、要するに町会長として、そういう責任は町会としてあるんだよという人も、そのことをよく知らないというふうなこともあるわけで、そこの手だてというたら、街灯というのはどういうようなもんやねんということについて、もう少しわかりやすく、用意しとくということが必要かもわかりませんね。

○山下副部長 地域の間人すら、わかってないケースが考えられるということですね。

○秋山地域活動支援課長代理 区としても補助設置で建設局に設置は実際頼むんです。建設局のホームページでは、制度として街路照明灯と防犯灯、こういう違いがありますということで、どういうところにつけている、という説明があるんです。区として設置要綱は持っているんで、ホームページにアップしているんですけど、ただそれを前面に出して、申請いただいたら区の方でっていうようなのまでは、今は実際できていませんので、あとは維持管理ということも含めてで、一応。

○山下副部長 でもその区で、対応できるっていうことを区で広報してもいいわけでしょ。

○秋山地域活動支援課長代理 そうですね。

○山下副部長 行政情報みたいな形で。

○秋山地域活動支援課長代理 そうですね、台数に限りがあるのでというようなことも入れながら、実際にはあると。あとは維持管理という問題があるので、今は個

人では受けてないという状態には実際してますんで、そこも含めてちょっと要綱上、どの範囲までが可能とするんかということ、検討した上で。

○山下副部長 個人が受けると、すごくややこしくなる可能性がある。

○宗宮部会長 電気代が関電との関係があるから。

○秋山地域活動支援課長代理 それで言うと、地域活動協議会なり、町会なり、あとはカメラなんかでいうと防犯をやっている、いわゆる構成団体ですね、地域活動協議会の中の。そういう一定、しぼりというか、媒体をつくっとかないと、つけてもらったは、そういうところがしていただけないようだと、ちょっとしんどいかなと。

○山下副部長 要するに、地域の町会なり地域活動協議会を通して申請してくださいみたいな形で。

○秋山地域活動支援課長代理 今はそういう形ですね。だから実際、区の方にも問い合わせというのは、ゼロではないんです。そのときでいくと、そういう地域活動協議会の方とかで、取りまとめて御報告いただくようにしているという説明はさせてもらっているんですけど。

○山下副部長 そのときに、例えば、諸口何丁目ですと言うたときに、じゃ地域活動協議会はここになりますからというアドバイスのなところはしてもらっている。会長は誰々やから、連絡してくださいっていう話ですね。

○宗宮部会長 後でお話したやつは、福祉会館と言ってきはったということと、町会長が、よく御存じなくて、大変やねんというところから、話が始まっているからということで結構、地活の方に言ってきはったんで、たくさんの方が知ることになって、周りの町会長が、これはこうしたらええねんという話の中で、前に進んだみたいなことがあって。

○秋山地域活動支援課長代理 それで言うと、私どもの方に年度当初にお願いしていると思うと言わはることなんですけれど、そのときにもうちょっと、そういう外からというか、何て言うんですかね、いろんな個人さんで、ご希望されたりとか、要

望があるケースもあるので、そういうところも広く拾っていただいて、調整していただいというような話は、もうちょっとせんなあかんのんかなと思います。

○宗宮部会長 明るくしてくれと言う人もいてはるし、家の前で寝られへんやないかいと文句言わはる人もいてはるしね。

○小川地域活動支援課長 そうですね。そういうのも確かにありました。

○山下副部会長 電柱1本で、全然全然違うからね。そういう窓口というか、受けてもらえるところがちょっと明確にわかるようになれば、区民としてありがたいのかなと思いますね。それをうまくシステムティックではないですけども、ちゃんと段取りよくこうしてああして、こうしたらこうなるよっていうケース。

○宗宮部会長 必要があるというふうに市民が思ったときに、どうアプローチしたらいいのかということについて、一定ルール化というか、見やすくしておくというふうなことは、必要なことやろと思いますね。

○小川地域活動支援課長 地域のね、榎本さんの広報支援。こういうところで書いていただくと、基本、全戸配布になって。アプローチの仕方として町会含めて。だから町会、入りましょうと。うちらもその点はバックアップできるかなと思います。

○宗宮部会長 そういう、やりとりがあったよみたいなことを、ちょっとコラムで載せるとかいうふうなことをしたら、情報の発信の仕方としてはいいかもわかりませんね。

○山下副部会長 4コマ漫画ぐらいにしてもらえると。僕は才能ないんで。それ、わかりやすく、そういうふうにやれていったら、本当、いいと思います。町会がふえる、多分最後の話になってきますけど、防災力のあれになってきますしね。全部、連携してくると思うんで。そういう感じで。

○宗宮部会長 カメラの更新を見越した対応というのは、どんな感じですかね。

○秋山地域活動支援課長代理 30年、来年度でいきますと、まだ今の制度を基本的には継続予定としておりますけれども、31年度に向けましては、ご存じのよう

に子ども見守りカメラということで、28、29、30年度で設置を市民局がしています防犯カメラが、多分、区の方に予算ごと移管になるかなと思っております。そうしますと、いわゆる公設置、公管理という形のカメラが区内にもでてきますので、その段階で、今、鶴見区としてやっておりますカメラの制度についても、一旦検討し直さないといけないかなと思っています。ただ、その中でいきますと、公設置、公管理というところていきますと、地域要望も聞きつつですけれども、より、例えばですけど、警察の意見なんかを入れながら、区役所として、行政として設置場所を検討させてもらうというようなことも考えられますし、一方で宗宮部会長もおっしゃっていただいているような、今まで付けたカメラというのを、どうしていくかていきますと、確かに5年以上たってくることにもなってきますので、例えばですが、区の補助という形にして、新規というところていくとそういう区設置、公管理、公設置するところへ移行して、例えば区の補助ということで、買いかえというか、つけかえですね。そこを検討するというようなことも、考えていく必要が出てくるのかなと思っています。

○宗宮部会長 念頭に入れた対応をしていただけるということで、古くなったカメラというのは、それこそダミーになってしまいますので、そういうことを考えていかなあかんと思います。あと、秋山さんが手づくりで設置場所を調査してくれはったやつも、役に立ってくると思いますので、そういうやつも活用してもらったらと思います。

あと、今日はお見えやないですけど、西田さんからお話があった防犯の日のマンネリ化のてこ入れをやっぱりしていけへんかったら、せっかくいい取組みやのに、だんだん細なっていくということについては、もう一遍見直さなあかんのんと違うかという指摘があって、警察との連携を区役所としても相当働きかけていただいたというふうな流れのことが、今報告されているんやというふうに思いますので、そういった方向に向かっていくということ、一つのこの2年間、最初にあった西田委員からの発言でしたので、それに対する一定の答えは進んできているというふうに思っているの

かなと思います。

次は2枚目にいきましょうか。

2枚目の方で、スケアードストレートを2カ所ということで、具体的な場所や日程も含めてお話いただいたのですけれども、ユーチューブの方もね、この間この場で話した後、区長がないのかというやりとりがあって、その後すぐにアップされとったから、えらい早いやんと思っていたのですけども、かなり関心を呼んでいるんじゃないかなというふうに思います。こないして見るだけでも、結構迫力ありますよね。あと、せっかく絵の中で、いいものやっているのに、このときも見に来てはる人が、やっている割には、もったいないというのが出ていたと思いますから、今年の実践については、そういった参加の啓発の方も地域を通して、徹底していけばいいかなというふうに思います。

あとは、各世代に向けた丁寧な啓発、安全教室の実践というの、丁寧に進めていただいているのかなというふうに思うんですけども、この2枚目のところについて何かご意見、ご質問ありますか。

○山下副部長 11月18日、19日って何かイベント絡んでいました。

○秋山地域活動支援課長代理 絡んでいません。単独でいきますので、一応、広報、周知ポスターですとか、チラシも十分に用意をして、あと学校の小中でいくと、生徒さんには配らせてほしいなと思っています。あとは、交通安全、スケアードだけをやって、これ1時間足らずぐらいのものにはなってしまうので、合わせて、例えばですけど、自転車保険の関係の損保協会の方なんかにもブースを展開してもらって、その交通マナーを聞いてもらったりした後に、保険の話も入れつつ、案内をしてもらったりですとか、あと自転車の関係のブース展開と、例えばなんですけど、小さいお子さんとかいてたら、余りこの交通安全見に行っても、って思われて、なかなか足が向かないということでいくと、遊具的なものも入れて、遊びがてら、ちょっと見に来てくださいよというような感じでは、まずしたいかなと思っています。今回一応、北と

南で2カ所、イベントとくっつけてないので、あれなんですけど、オープンスペースというところでやりますので、できるだけ広報、周知をして、来てもらおうとはしています。

○山下副部長 警察との連携。

○前田地域活動支援課担当係長 交通課の方に依頼しておりまして、交通マナーのお話をしていただける予定になっております。

○山下副部長 この間、白バイにまたがれるというのは、結構あったからね。

○前田地域活動支援課担当係長 一応、白バイも来てほしいなというところでは、お願いしているところなんですけれども、まだちょっと、確約というか、確かなお返事はいただいております。

○山下副部長 こんなんで、ビデオを警察に見せたかどうかちょっとあれなんですけど。こんなんやるんで、できるだけ、たくさん人集めたいんで、協力をという形でアプローチしてもらえれば。すごかったですよ、今年。白バイにまたぐ、区民まつりで。今日、お巡りさんも、ちょっと予想を超えましたと言って、ふうふう言っていましたけどね。今年、特に多かったですね。

○宗宮部長 今年多かったですね、区民まつり。すごい人やった。

○山下副部長 すごかった。僕も10年ぐらいなりますけど、一番多かったなみたい、日も天気もよかったし。そういうふうな、白バイが来る予定ぐらいにしといて。

○秋山地域活動支援課長代理 そうですね。本当は、交通安全のマナーを、勉強してほしいのが一番なんですけど、余りそれを前面に出しても、何かね。おもしろいとか、そんな難しいのんいいわってなるところもあると思うんで、こういう遊び要素じゃないですけど、そんなんは入れんと、とは思っています。

○山下副部長 実際その、周知するときに、まずもしできるんならば、それこそDVD持って行って、こんなんやりますんでっていうふうに見られる、少なくとも地

活協会議とか。

○秋山地域活動支援課長代理　QRコードで見られます。ユーチューブで例えば去年の実施の中身見ていただけます。

○山下副部長　そのインパクトとか、おもしろみがあるのを見たら、レポートというのがあるから。特に多分、関心が余り薄い若者というたら変な言い方ですけど。SNSに接する機会の多い年齢層の人がたくさん見るのは。

○宗宮部長　特に、小さい子どもさん、いたはる人というのは、なかなか榎本今津地域から緑地へ行けないというふうなことで、これも言って、この場での意見を生かしてくれてはるんやと思うんですけども。今津公園と鶴見緑地の分散開催というふうにしているのは、物すごくありがたいというように思いますね。関目自動車学校横が、榎本の我々の感覚からしたら、鶴見緑地やと余り思わへんのですよね。どうしても鶴見緑地って言ったら、区民まつりやった辺りが、鶴見緑地っていうことがあるんで、鶴見緑地やって言われて、関目自動車学校の横行ったら、全然違うところになってしまうということがあるのかなと。

○前田地域活動支援課担当係長　11月号広報つるみで、周知はするんですけども、所在地の括弧書きのところに、関目自動車学校東横っていう形で、注意書き入れさせてもらっています。

○宗宮部長　たこ揚げなんかも、長いこと歴史があるから、当たり前やと思っていてんですけど、そら毎年参加しているもんが、そう思てるだけで、結構鶴見緑地でたこ揚げやねんと言ったら、やってなかったと言わはるんのですよね。わかってない。

○山下副部長　噴水周りっていう生徒も。ちなみに交通局も巻き込むんですか、また。交通局はパス。

○秋山地域活動支援課長代理　交通局は今年は別のとこと。1回やったところはちよっと、って。

○山下副部長　自転車屋さんの、防犯協会の自転車部会で、自転車のメンテナン

スしますみたいなやったら。

○秋山地域活動支援課長代理　　そういうのも。

○山下副部長　　ブレーキが緩んでいる自転車のブレーキ、ちょっと引っ張ったげるよみたいな、買えじゃなくてメンテナンスしてあげるといふか、空気抜けているやつ
の空気調整とかな。そんなんも依頼してあげたら。

○宗宮部長　　ブースとしたら、おもしろいかもわかれへんね。結構いたはります。

○山下副部長　　多分、自転車で来はる人いっぱいおるやろうし。

○宗宮部長　　ついでに、見てもらおかということ。

○山下副部長　　これ、あかんよって言ったら、自転車1台売れたりするかもしれんし、て、言って自転車部会の人に言うんですよ。悪い自転車、見つけたら売れるかもしれないから。メンテナンスだけでいいんで来てください。要するに、そういう交通関係にかかわる、その関係各方面、できるだけたくさん巻き込んだほうがおもしろいかなって思っ
て。あそこの駐輪場の管理しているところも、何かやっていたね。

○秋山地域活動支援課長代理　　安全・安心フェスタなんかでいくと、シミュレーターっていふか、その自転車乗って、こう、ゲーム感覚でいふのをサイカパーキングさんがされています。

○山下副部長　　そんなんも見たことあるし。

○宗宮部長　　そういうのん、おもしろいですね。

○山下副部長　　できるだけ、いろいろ広げると、来てくれはる人も広まるし。

○宗宮部長　　来て、ラッキーと思ったら。

○秋山地域活動支援課長代理　　来て得できると思ってもらえたら。

○宗宮部長　　いろんなところを巻き込んで。

○山下副部長　　イベントに絡まないんなら、イベントにしちゃおうというぐらいの気持ちで、やっていただけたらいいのかと思います。

○宗宮部長　　3枚目、行きましょか。

安全・安心を担う総合的な防災力の強化ということで、地震や、今年は台風があったり、水害がかなり身近にあるというふうなことで、防災力の強化というのは、相当必要になってきているんやろうと思います。その中で、今日、区役所の方から出ている、「つるみんピック」とか「安心・安全フェスタ」については、丁寧な取組みを毎年重ねてきたということで、特に「つるみんピック」なんか、非常に効果が上がっているというか、もともと防災リーダーが始まったときには、もう名前だけということで、服持っただけでも着る機会がないというようなことを防災リーダーの人から聞きました。僕の先輩の方からね。こんなん新しい仕組みとしてできた、そんなに歴史は長くないんですよ、全然名前だけになっているねんけど、何してええかわからへんと、昔もらった革手袋なんて、使うことないとか言って。それが最近になって、いろいろ活躍し出しているというふうなことで、自主的に「つるみんピック」に向けて、練習を始めるというのは、隔世の感があるぐらい。昔防災リーダーになられた人はびっくりしてはりますよね。頼りになるんやというようなことでの発信もできているし、地活の取組みとしても、非常に有効な取組みになっているんやないかなというふうに思います。この場に出た話として、この「つるみんピック」や、トランシーバーについても、反映していただいているというふうに思いますので、さらに幅を広げていっていただきたいというふうに思います。前田さんからもありましたけども、9月1日のツイッターでの情報訓練については、ものすごく頑張ってたというふうに思いますし、きめ細かなシミュレーションが、本当に生かされていたやないかなというふうに思います。あとはやっぱり、区と各福祉会館とのやりとりしているトランシーバーの毎月やってはる訓練の、定期的にやってはるというやつを、もう少し重視して、配りをはるトランシーバーについても、もう少しそれに絡めてやっていくというふうなこととか、そのツイッターでの訓練なんかも、区の動きを、やっぱり防災リーダーの方が連動した動きができるようなシステムづくりみたいなことも、今後の課題としてやっていただいたらいいのかな。そのベースになるところについては、この間のさまざま

な区の実践の中で、助成することができてきているのかなというふうに思いますから、あとそれをどれだけ広げていくのか、しっかりしたもんにしていくのかというところで、手を抜かずに頑張っていたらと思いますけれども。いかがですか。

○山下副部長 僕はこれは、目的の1行目なんですけども、自主防災力の向上、自助と共助の意識の醸成ということなんですけども、これ、反対から言うと、公助の即応力ってそんなにないよということやと思うんですよ。で、そこをね、いっそのことばんと前に出した方がええんちゃうかなと思うね。多分、区民の何割かの人は、何かあったら区役所が何とかしてくれるやろというふうに思っはると思うんですよ。何かあったら、国が、府が、市がっていうところの感覚でいてはると思うんですけども、そうじゃないよっていうところで、こういう自助と共助の意識の醸成なんですよけども。それではだめなんだよということや、もっと、極端な話、区役所がいざになったら、お手上げなんだよっていうところや、もう言っちゃったほうがいいのかと思うんですよ。だから、地域で頑張ってください。それには、やっぱり町会に入ってもらおうとか、そういうところや。なかなか、行政がお手上げしていいのかどうか、その言い方やと思うんですけどね。お手上げしていいのかどうかっていうのは、難しいところやと思うんですけども。そこかな。

○宗宮部長 今、山下さん言わはったことで思い出したんですけど、「つるラボ」に来ていると、「つるラボ」では相当言っているんですよ。これ、かなりダイレクトに公助は実際、起こったときに役に立ちませんよというところから、地域の皆さん、さあどうしますかっていうのを「つるラボ」では結構言っているというのがあるんやけど。逆にね、言うてたなというのと、逆に「つるラボ」の取組みがちょっと中途半端やなど。誰を対象にしているのか、誰に広げようとしているのかというところが、もう一つ見えないというような、防災リーダーの中の代表者に訓練をしているということで、何がしか、「つるラボ」の発信として、できているんやというふうになったら、ちょっと違うんちゃうかなというふうに思っはる、「つるラボ」での

中身をどう広げようとしているのか、対象が誰で、何を獲得しようとしているのかというところについては、「つるラボ」自体は、僕はおもしろいと思っててんけど。参加してはる人たちの顔ぶれ見ていたら、このメンバーでこれやっていて、どうなのというの、ちょっと正直思うんですよね。確かにその中では、ぶっちゃけたところも言うたはりますわ、こんな状況の中で、どうしたらええのかというようなところね。もう少しそういうふうに分ったら、工夫の余地があるのかな。今ごめんなさい、こうしなさいというのはないんですよ。ただ、感想としてそういうことがあるかなというのを思いますね。

○前田地域活動支援課担当係長 区役所としましても、地域の防災講演会だとか、土曜授業なんかでは、実際公助の部分が、例えば阪神淡路大震災のときは、公助で助かった人は2%しかいないんですよっていう講義をさせていただいているところですけども、やっぱり防災学習とかに来られる方は、もともと防災意識の高い方で、そういうことは、自助、共助の意識もある方なんかかなと思うので。今後の課題としては、そこに来られない方が、恐らく公助に頼ったらええわという方やと思いますんで、その発信の仕方についても、ちょっと課題があるかなと思っております。

○山下副部長 広報つるみで、1ページ目にもってくるわけには。だって1月って1月17日で大事な日があるじゃないですか。だからその日に合わせて、やっぱり1月の1ページ目は防災特集にして、さっきの前田さんの話やないけど、公助で助かった人はもう2%ですよって、ばんと出しちゃえばええけど。

○秋山地域活動支援課長代理 8月は一応防災特集ということで、組ましてはもらっていたりするんで、1月とかは。

○小川地域活動支援課長 1月は、新年の挨拶なんで。今年の初めは、もったいない使い方したなと思ったんですけどね。

○山下副部長 でも、三つまとまって、よくなったよ、警察と行政と消防と。あれも、この前出ていた話ね。見やすくなったし。

○宗宮部会長 なかなか、役に立っているやないですか。

○山下副部会長 でもやっぱり対応していただけているからこそなんで、僕ら好きとか言っているだけですから。「つるラボ」って何なのっていったら、結局まちセンなんでしょ。まちセンの存在意義を危惧するために、あるのかなと思って。

○田中委員 一般の人も参加されています。防災意識というのは高まっていると思うんです。そうなんか、そう考えなあかんのか。そういうこともあるんかってね。この間は百科事典でしたね。それを、題にして聞いてあげるとか、そういう発想もできるように。

○山下副部会長 よその地域からも来ている。よその人も来てはるんですか。

○秋山地域活動支援課長代理 区外の人もおられます。一般の方もおられたし、あと地域防災リーダーという立場で来てはる方でも、目からうろここという地域もあったようで。ほかの地域はこんな取り組みしているのと、持ち帰りはって。

○田中委員 防災リーダーさん。新しい方、訓練を受けてない方もいらっしゃいますし、長い間、何回もそんな訓練を受けてはる人もいてはりますけども、本当に今年なったんやという人には、とてもいいんじゃないかなと思います。区役所さんが、いざとなったら消防も区役所さんも何もしてくれへんでっていうのは、私たちさんざん聞かされて。ですよね。だから、自分たちで自主防災組織をつくらなあかん、それは役しているもんは、防災会議に出ているもんはわかるんですけどもね、防災リーダーしてはっても、一般の人もうちらの辺りは、橋がいっぱいある地域なんです。橋が壊れてしまたら、うちらはどうしようもないです。小学校行かれへんなって、おっしゃるんやけども、その橋なかったも、ほかの方法で何とか行ける方法を防災マップ作りながら、考えて、そして区役所さん、消防さんも来てくれへんねんから、そういうことを想定しながら防災組織を積み重ねてつくっていったら、いいんじゃないかという話を話させてもらったり、難しいですけど。言われるんですよ、こんなんやってもしょうがないやんって。だからそれを、そうじゃないですよと言っていくのが、私

たち役やっているもの役目かなと、そしてあとは、避難所開設までいきましょうよって、本当になったら大変ですもんね。だから今は役員しかやってないです。それを、地域にもっと広めて、防災訓練に参加してくださいねっていうことをやっていきたいなと今思っておるんですよね。だから、いつも来られる方じゃなくて、民生委員さん、保護司さんとか、老人会の皆さん、今度は参加してくださいねって、スタッフになってくださいねというやり方を、今年の防災訓練に進めていきたいなと今考えて前田さんには、お世話になっています。

○山下副部長 「つるラボ」でやっていることの意味合って、すごくあるっていうことなんですかね。

○宗宮部長 「つるラボ」自体、かなり実験的な防災かるたにしても、いろんなメニューが実験的な内容で、どれがええんかなというふうな、今やったら見本市みたいな感じで、うちの地域でやるとしたらこれかなというふうな感じの目線では見てるんですけども。うち防災リーダーが行かなあかんという意識持って来てくれているんですけど。平日の晩やっているということで、どうしてもそういう意識の人の参加というふうになって、一般の参加を呼びかけるっていうふうに、なかなかならないということと、その実験的な、土曜日の昼からとかね。持ち帰って、もう少し幅を広げてやっていくようなメニューやろうと、どれがよさそうやから、これ、うちでやるわ、みたいな形になるということで、「つるラボ」が今取り組んでいることというのは、意味があるというふうに思うんですけども、あのメンバーを夜に集めて、いうたら講習して、そこで終わってまうというようなことやったら、「つるラボ」が何を求めているのかということになってくると思うから、あの先をどう見越したところで、「つるラボ」の位置づけがあるのかということが、もう一つ見えへんというふうなことなんですよね。実験的なプログラムをいったら、やっていくということについては、全く意味がないというふうには思ってなくて、おもしろいなど、いろんな、全国でいろんな、この間神戸の消防署がつくったやつというようなこととか、いろんなこと全国

で動きはあるねんという、新しい情報としては、「つるラボ」は意味があるんですけどもね。それを、あそこで自足してしまうというんですか、あそこでやった、疲れたやなくて、あれをどう持っていこうというふうに、うち村上さんが熱心にやってくれとったHUGが意味があるというふうに思っているんで、毎年防災訓練にはプログラムの中に入れて、講堂で開催するというふうなことを、結構よくやっていて、毎年HUGやから、「つるラボ」で出たやつメニューに置きかえていくということも、可能性としてあるのかなというふうな感じでは思っていて、そういう意味での「つるラボ」やったら、物すごく意味があるというか、出てくるやろうと思うんですけどね。なかなかHUGにかえてこれやというふうには、今の「つるラボ」の設定の仕方やったら、ちょっと難しいなという感じがしているんですけどね。

○山下副部長 結局、同じことを何回もしてくると意味合いが出てくることがある。だって、「つるみんピック」なんてそうや。結局回数を重ねることによって、今、意味が出てき始めているというか。それこそ、自主的に練習して一番なつるんやという気持ちが出てきたということなんで、「つるラボ」で防災を高める、実験的ないろいろな取組みっていうのは、何回も同じことをやって、それがここでやるんか、地域でやるのかっていうのも含めて。例えば避難所開設訓練の中で落とし込むようなあれがあるんやったら、そういうふうにして落とし込んでいくとか、それも考えていてもいいのかなと思ったりしますけどもね。

○宗宮部長 おもしろかったですよ。この間のやつは、結構みんな、むきになってやっていたけど、最後に消防署のまとめが、情報というのが最初からぱんと、張り出しとくもんやった。ぱんと張り出して共有したところから始まるんやと、情報とはそういうもんやでと言うてしもたら、ちゃぶ台返しになる。情報隠して、相互の話合いの中で、引き出していくというゲームをやっているのに、消防のまとめが情報といたら、引き出すのに苦労してどうするねんと、そんなもんは最初に書き出すもんやと言われたら、そのゲームがもともと成り立てへんやんかというような話があった

りね。すごろくなんかでも、これもうちょっと年代がどのあたりに向いたゲームなのかとか、そういう意味でいったら、いろんな取組みがあるメニューがあるということでは、楽しかったんやけど。そこが、どこ向けに、どういうふうに設定したらええのかということが整理されてないと。最後の日はメニューが余りにもたくさんあって僕も疲れてしまいました、最後はね。ちょっとそのあたりの整理が、もともと誰に向けた、何をしたいこうとするものなのかということが、ちょっと未分化というか、整理ができてないのかという感じがしたんですけどね。

○山下副部長 次、どこで何を、どこでやるために何をどう絞っていくか、ブラッシュアップするかでしょうね。例えば避難所開設訓練の中のその講話のかわりにそれをするんやったら、こういうとこの、これとこれとこれ持って行って、やったらというふうなこと考えていくとかね。

○田中委員 最後3回目ですよ。あれ楽しかったです。むきになって考えました。みんな、必死ですよ。これはどうしたの。これは違うの、というふうにね、みんなカードをめいめいに持っているからね、自分の持っているぐらいしかわからへんから、持っているのんと違うのとか言ってしまいました。早く出したいから。すごく楽しかったです。

○宗宮部長 結構持つてはるというのが、出てなかったというのが、途中からわかったりなんかしてね。

○田中委員 持つてはるんやろなと思って、何で出しはれへんのん。言ってくれはらへんのやろか。持っているのちやうとか。

○宗宮部長 そういう意味で言うたら、熱くなってやっていたわけやから、意味ありますよね。

○秋山地域活動支援課長代理 3回ともたくさんの方にご参加いただいて、夜に開催したのにもかかわらず、防災に関して関心も高いのかなというのがあったんで、今いただいたご意見も、きちんとまちづくりセンターの方にもお伝えします。

○田中委員 楽しくできないと。すごくよかったと思います。

○秋山地域活動支援課長代理 ありがとうございます。いろんなご意見いただいたので、また、はい、伝えて、今後に活かしていきたいと思います。

○宗宮部会長 そういう意味での、総合的なというところでは、この間やってこられた、鶴見区でやってきたというのは、本当に総合的な取組みとして、幅も参加している人も広がってきているというふうに思います。さらに続けていっていただきたいというふうに思います。

ホームページ、フェイスブック、ツイッターについても、ここ4、5年、最近特に急激に進歩してきている中での対応も、できてきているのかなというふうに思います。

通しで、こんなもんですかね。

○山下副部会長 情報の共有って、できます。もし今何かあったら。今なんかあったら言うたら、あれですけど。今の今、地震が起きました。対策本部つくりました。地域から情報が集まってきます。どこで、どういう情報をどう管理するかっていうのは、できる。できると言うたらあれやけど。

○秋山地域活動支援課長代理 災害対策本部として、まさにそれができるように、今、訓練を、職員研修なんかも進めているとこなんですけど。

○山下副部会長 情報収集のツールというのは、トランシーバー。衛星電話。

○秋山地域活動支援課長代理 衛星電話ももちろんありますし、無線とか。

○山下副部会長 その、練習というか、訓練って、時々って言うたら変やけど、月1でやっているんですかね。

○前田地域活動支援課担当係長 防災無線につきましては、毎月第3水曜日の11時からなんですけれども、区役所からまず発信して、地域の方で受けていただいて、それを応答し合うということで。

○山下副部会長 それは全12地域。

○前田地域活動支援課担当係長 12地域と警察と。

○山下副部長 返ってくる情報っていうのは、混乱している、ない。

○前田地域活動支援課担当係長 一応これ、もう、せりふ決まっています、主に使い方に慣れていただくということを目的にさせていただいております。

○宗宮部長 受け答えのシナリオがトランシーバーの横に貼ってある。

○山下副部長 シナリオが貼ってある。

○宗宮部長 ただ、うちで話しとったんは、事務所における事務員さんが、専らそれを受けてやっているという対応なんで、防災リーダーがその時間帯に来られるのであれば、その体制を組まなあかんよねというのは、最近話したことなんですけども。せっかくそういう地域と区役所との訓練を共有するということでの接点ですからね、そこを防災リーダーの方も無視するんやなくて、積極的に参加していくというふうな姿勢をもっておられてほしいというのを、この間話したんですけどね。

○前田地域活動支援課担当係長 あとは、開設訓練地域で、防災訓練やっていただくときに、会館に置かれている無線を持って行っていただきまして、区の職員との。

○宗宮部長 あれ、もともとやっていたんですよ。河本さんと一緒に手づくりで、榎本、始めたときは、それがメインやったんです。しばらく置かんようになったらどうか、僕は何て言うの、それが始めたときは、メインやったから毎回持って行っているんですよ。榎本小学校の本部テントのそこには、あれ置いてあるんです。鳴らんなあという。河本さんが、最初設定しはったときは、これの訓練をしますということで、区役所の方から。

○山下副部長 情報収集するための訓練ですね。だからその区役所の体として、教室のどっかを区役所の体にして、情報の伝達訓練というのをする必要もあるんちゃう。例えば負傷者何人とか、被災家屋何軒とか、そういう情報。

○宗宮部長 まさにそういう訓練、講堂の中のここ、区役所の発信場所ということで、区役所同士で、区役所と出先ということで受け答えして、地域のトランシーバーというやつを、河本さん知ってはりますけど、やっていたんですよ。

○山下副部長　　そこが、大事なんちゃうかなって。もう10年くらいやっているじゃないですか、避難所開設訓練。どっちないうと地域も、毎年同じようなことやっている状況になってきて。なんせ情報伝達というのが、多分一番混乱する根っこやと思うんで、そこをね。できるもんなら、12地域一斉にある日、ある一日同時に避難所開設訓練やってまうとかね。

○宗宮部長　　情報訓練としてでも、それは同時にできたら。大阪市と危機管理室と区がやっているやつを、区役所と12連合でやるというふうなことは、情報訓練としては、金もかけんとやろうと思ったら可能ですよ。榎本は去年からラインアットに挑戦しているんですよ。ラインアットはお金がかかるんで、無料のフェイスブックもそやし、ツイッターもそやしと、その中でどれが一番有効なのかという、どれにでも対応できるような、手だてとしてラインアットというのは、情報が集まってくるんですよ。写真やとか、こんな情報やとか、それを返すときには、精査して小さな放送局をうちが持つみたいなことなんですよ。それが、実際できるのかということで、去年は、驚くほど、22町会で同時に動きまして、実際にはつかんでなかったんですよ、各町会でどんな動きしているんかというのを、それが写真で、ぶあーっと送られてくるという状況になって、ほんまに、榎本地域全体で訓練しとんねんということが、初めてリアルタイムで絵でわかったというのが、去年ラインアット使ったことでわかった。今度それを返さなあかんというときに、広報のほうでその能力があれへんということで、いっぱい来てしもて、どれ返してええかわからへんというような状態やったんですけども、もう一遍今年もやって、実際のところ月単位で何本までというのを無料やと決められているんで、月末やったら、もう残っているから本数全部使えてまうけど、月初めの訓練やると、ちょっとしんどいよねとか言いながら、

有料に切りかえるかという議論を、この間したんですけども、榎本の地活としては、まだ役に立つかわからへんようなもんにお金を出すというのは、適当でないというか、今年の結論なんですけれどもね。ラインアットという仕組みみたいなやつを、例えば行政指導でやってくれるというふうなことがあったり何かしたら、非常に地域ごとに情報アイテムを持つということでは有効やし、そういうことを市の方でも検討してもらわれへんのかなというのは、うちの中では出ていた話なんです。

○山下副部長 パソコンなりの同一画面上に被災状況が全部打ち込めたら、ええんでしょうね。言葉って、やっぱり間違いのもとやから、字が一番多分正しいし、ひよっとしたら、今できるんやったらファクスなんかかもしれんし、その電話もしかりやけど、実はファクスの方が正確で早いやんみたいな話でいろいろやっている中で出てくるかもしれないし。

○宗宮部長 正確な情報をやりとりせなあかんということが一番大事なことです。

○山下副部長 その辺のちょっと研究というか、勉強というかちょっと地域も行政も必要なんかもしれへんな。

○宗宮部長 山下さんが情報共有ということが、どの程度できるのかって、ぼんと言わはって、僕、横で要援護者登録を頭に浮かべたんですよね。地域や区役所や、場合によっては消防が情報として持っていて、それがどの程度有効に機能するのかというのを、またそういったときに機能するシステムなんですよというふうに謳いながら、実際どの程度機能するのかというのを、きのうもちょっとね、防災の話をきのうやったんですよ。その中で要援護者登録の話しながら、片隅で、本当にこれ大丈夫なんかなと思いつつ、ちょっと話をしていたということあったんですけどもね。

○山下副部長 登録していて、いざ、なった。ほったらかしになってまうわと言ったら、何しているこっちゃわからへんね。

○秋山地域活動支援課長代理 鶴見区の場合は、ご存じのように、3地域ずつ災

害時要援護者の取組みということで、一度していただいて、それと別に大阪市危機管理室の方で、大阪市の要援護者の名簿というのを持っています。あと、27年度くらいから、福祉局の見守りネットワーク事業ですか、その関係での名簿も今地域の方にいっていると。そこでいくと、少なくとも地域には2個、名簿があるような状態にもなっておられるかと思えます。

○山下副部長 結局それって、名前をリストアップしているということは、個人で情報を拾っていかなあかん責任を負ってしまうんじゃないの、最終的には。リストを拾うということは、やっぱりそこまでやりますっていうことの裏づけというふうに思われているはずやから、じゃ、受けた方は、もう名前でリストつくって、その無事か不明かというチェックというのんもしていかないといけない。けがしたのは、けがして、どこの病院におるみたいな。

○秋山地域活動支援課長代理 そこが、私どもも防災の担当しても、名簿をつくってくださいと言って、つくってもらった上で、その後のフォローができてないというのは認識してまして、ちょっとどこまでできるかなんですけれども、今年度、共同研究という形での要援護者名簿の活用の方法といいますか、どういうふうに活用していけば、その地域の負担感、負担感という言い方あれなんですけれども、そこも考えながら、支援しやすい体制づくりと、その上で災害時に活かせる名簿の活用法みたいなのができないかなということでは、ちょっと取り組もうと思っています。

○山下副部長 そのね、やっぱり自助、共助の落とし込みというのが、大事になってくるのかな。いよいよ大事になってくるからな、多分。

○秋山地域活動支援課長代理 行政、区役所だけでいくと、そこがなかなか活用法が見い出せないの、覚書も交わしながら、民間も入ってもらって一緒に他事例、他都市の事例なんかも入れながら、考えているところなんです。

○山下副部長 ただただ普通の地域住民だから、被災家屋何軒、けが人何人の中に混じってもうても全然問題ないと思うねんけど、やっぱり。そこら辺がね。多分

一番、依頼した本人がやっぱり、私はいざとなったら大変やと思うから、お願いしますねっていうふうな、いわばS O Sに近いもんを挙げてはんねんからな、そこをちゃんとフォローしてあげやんと、地域としても行政としても、やっぱりね、意味がないとか。今日明日結論出せというもんじゃないからあれやけど、今後の課題として、そういう人をどうフォローしていくんか、どうしたらフォローしていけるのかっていうシステムティックな構築っていうのが大事かな。もう言っている間にね、来るし、まして予知でけへんから、いつ来てもいいようにしろよっていう話が、何かきのうかおととい、出ていましたよね。予知を前提としないとなっているからね。

○宗宮部会長 要援護者登録、うちがやっている手挙げのやつは、隣近所で見守りしましょうやから、防災訓練をやるときは、まず自分とこの家族を大丈夫やということの前提で、もちろん、そっから出発するんですよということやねんけども、その後、要援護者登録をしていただいたふれあいの皆さんは、その対象のところのピンポンは押さんでもええから、とりあえず家の前までは行ってくださいと。訓練のお誘いも顔見たらしてくださいと、戻って来て訓練に参加しますよっていうことで。要援護者登録の、言ったら要するに、名簿の点検とか、ふれあいの人の動き方をそこでシミュレートするっていうのを、軸に置いた訓練っていうのが、訓練当日の動きということで、その動きをせなあかんからということで、ふれあいの要援護者登録の声がけの人たちを集めて、今年の訓練でこういうことをせなあかんのですよっていうことを、毎年毎年、確認するというようなことを、防災訓練の当日の動きとして絶対、一番核にある分やということは、押さえている。区役所から来てもらう、名簿提供してもらっている災害時要援護者登録っていうのはね、隣近所で見守るんやということで、ちょっと、躊躇してはる人たちが区を通すことによって、民生や町会長のところへ情報が来ているということ。もちろん、僕なんかは民生として知っているということを前提に話をするんやけど、家族さんの中で、そのことが民生に知られているんやということ、共有してはれへん家族も当然おるんやけど、今までみたいに、完全にブロックされて

いたら、見えへんところが、民生、町会長がアプローチの仕方というのは、それぞれがちゃんとせなあかんことやねんけど、情報として知っている、区を通して知っているということは、僕もそんなに数、こんな成果上げていますとは、よう言わんけど、確実にあれが役に立って、見守りの結果に結びついたっていうのは、僕の経験でもあります。だから、災害時要援護者登録、区を通して情報提供はされている、区ということを経ることによって、安心感を持ってはるということがあって、単に地域の手挙げ方式だけでは、フォローでけへんかったところに、確実にウイングを広げられているということは、僕の経験でも確かにありますからね。これは、物すごくいいことやろと思います。それとやっぱり、うちが手挙げでやっているところと、区を通して災害時要援護者登録と、それぞれ意味合いが若干違って、その両方が機能していくということが、地域の防災力を高めるということで、その隣近所、両隣のつき合いを深めていくというところで、有効に機能していくということが、独居老人の高齢者世帯がふえている中では、一番有効なやり方なんちゃうかなという気がしますけどもね。

○田中委員 要援護者の名簿って、ごく一部なんですよね。民生さん、おっしゃるには半分とか、何分の1とかおっしゃってましたよね。そしたら一番必要なのは、さっきおっしゃったように、隣近所でそういう人たちを把握しておく、町会で。それが一番ですよ。

○宗宮部会長 いきなり、災害時要援護者ということで、区からもらったやつと、混ぜてしまうということは、でけへんから。民生や町会長の方が、そのもうた情報を、うちの要援護者登録の中に落とし込めていけるような対応をできるだけ、こうしていきたいという働きかけですね。それも無理のないように、同意を生かしたような形で進めていくということで。ベースとなるうちの手挙げの方式の要援護者の、そんな特別なことやなしに、隣の家見てねということですから。普通にわざわざシステムにせんでも、昔やったら当たり前になっていたことを、要援護者登録という形で、積極的に進め、もう一遍、そういうのを取り戻しましょうということやろ思うんで、そこへと

言ったら、行政を通して、安心感がさらに、そんなら情報くれはるということになっていくんやと思う。

○田中委員 延長だと思っわ。町会なり単位で決め事、ルール、それを話の機会を持たなあかんって、思っているんです。無事やったら無事で、うちの町会はこういうことをしときましょとかね、話し合いの場を持たないといけないのって今感じています。

○宗宮部会長 うちでは、これを張ることになっています。

○田中委員 それやったらね、ちょっと問題がありますよね。

○山下副部会長 おせっかいかもしれないんですけど。

○小川地域活動支援課長 区役所に、あからさまに。

○山下副部会長 これね、ばんと張ることによって、ここ留守ですよになるでしょ。

○宗宮部会長 そういうふうに言っているところは、回収に回ってはる。張って回収に回る。訓練やから、これ張らんと、これ持ってきてくれというふうに言うてはるところもありますわ。そやから全員これを張って出てきているわけではなくって、町会ごとに運用の仕方は違います。これと違うのをマンション独自でつくろうということで、マグネット式のやつをつくりはった。ドアノブに、ひっかけるやつをつくりはったところもあるし、何もせえへんところは、とりあえずこれ渡してくれというぐらいのところで。これを張りましょうという言い方は必ずしもしてない。

○田中委員 すごく、そこまでできてはるような。

○山下副部会長 あれですね、喫茶店のコーヒーチケットみたいに。班の数だけチケットちぎったらええのに。

○宗宮部会長 うちの理事長は訓練用でこれを配ってしまいやろと、ほんならほんまに来たとき、どうすんねん。これ訓練で使ってしまった、なくなってしまったら、どうすんねんということで、今年は本番用ということで、今津中やとか榎本小へ、のを抜いて、もうちょっと裏に何か必要な情報を書いたやつにせなあかんとか言って、

今年ちょっとね、これは訓練用と違うから、家の玄関先に置いていてくれと、それは持ってくんなどいうやつも、今年は同時にやろうということで、ちょっと話また出ていますね。これ丁寧に配って回ってはるところの町会は、参加が多分多いですわ。

○山下副部長 意識の問題。

○宗宮部長 訓練やっていますよという働きかけ、声かけができていますよね。ただ、回覧板回しただけでは、情報としては伝わるけど、行こかにはなれへんと思う。そやけど、これ持って回らしたら、ほんなら行こかに、やっぱりなってくるというね。そういう効果もあるのかなと。

○山下副部長 確かに張って出てみよかなと思いますよ。

○宗宮部長 ただね、やったら、きのう飲んでいたときに言っている、去年の写真なんですけどね、9時半地震の想定なんやけど、もう9時にはそろってはるという。楽しみにしてはるから。

○山下副部長 まだですかって、5分前に。

○宗宮部長 1回そういうもんも、できていったらええのかなというふうに思います。

ちょっと、話は各町会で各地域での情報共有と、それが行政とどうタイアップしていけるのかというところで、いろんな取組みもありながら、それを検証していくという取組みも、また求められているのではないかな、というふうなことやろと思います。

もうちょっと、時間の方も、少ない人数ですけど、話は盛り上がりますね。ということで一応予定されている内容については、ここで一旦置いて、せっかくの機会、きょう最後ですので、区政会議全般にかかわって、感想とか意見があればということで、ちょっと話もしていただきたいということがありますので、2年間でしたけれども、参加されてどうやったのかということ、ちょっと一言ずつお願いしたいなというふうに思うんですけど、田中さんの方は。

○田中委員 区政会議で出た意見、反映されていると思います。私個人でも、こ

の部会ではないのですが、種花事業の榎本の方でしておりました。うちからは遠いんです。すごく、交通で危ないとずっと感じておりました。それを区政会議でいただいて、緑地の方にまた広場をつくっていただきました。本当にありがたいと思っております。ほっとしております。

○山下副部長 今さら、発言することもなく、いろいろ意見言わせていただきまして、かなりの部分、受けていただけて、区政の方に反映できたところもあるのかなと思っております。本当行政の方にはね、すごく対応していただけたと思っております。ありがとうございました。今後とも、頑張ってください。よろしくお願いします。

○宗宮部長 こんだけ、無責任というふうに思ってないんですけども、気ままに思いついたことを、ぽんぽん言って、それをちゃんとまともに聞いてもらえているという時間を区政会議の中でもたせていただいて、本当にありがたかったなあというふうに思っています。そういう意味でいったら、そういう、こう思いつきや発言に対しても区役所が、実現能力をもってはる、そういう能力もってはるんやということを、僕は本当に実感したなあというふうに思っています。2年間でしたけども、貴重な体験、今お二人おっしゃられたように、僕も本当に貴重な体験をさせていただいたというふうに感謝申し上げます。ありがとうございました。本当に今まで、いろいろ実現していただいたということも、これからも引き続き、区政会議の中で出てくる意見というのを、ぜひ実現していただいたら、やりがいというか、こんなことも言ってみよか、あんなことも言ってみよかという気持ちで、やっぱり部会や本会議の方も、経験させてもらったこともありますので、この姿勢として持つておられるところというのは、さらに続けていただいて、こんなやりとりやったら、来て意味があるなあというふうに実感しましたし、ここのメンバーはみんなそう思ってるんやと思いますんで、ぜひそういうことで、よろしくお願いします。ありがとうございます。

区の方からお願いします。

○野村副区長 本日は、遅い時間、またお足元悪い中、ご参加いただきましてあり

がとうございました。特に委員さんには2年間、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。特には、引き続きお世話になる委員さんもいらっしゃいますけども、特に行政の気づかない視点から、ご意見たくさんいただきまして大変よかったですとっております。いただきましたご意見につきましては、これまで既に反映している、それから今日お出しいただきました今後の方向性について、これから反映していくものたくさんを考えております。また引き続き、いろんな立場から、ぜひ大事な意見を頂戴できれば、ありがたいとっております。よろしく申し上げます。

本日はありがとうございました。

○宗宮部会長 あと、何か連絡事項。

○前田地域活動支援課担当係長 最後に、本日お配りさせていただきましたアンケートにつきまして、ご協力の方をよろしく願います。

○宗宮部会長 区長から何かいただきたいなあという気は僕もしていました。

○河村区長 副区長が、しゃべってくれはりましたので。本当に2年間ありがとうございました。

本当に防災にしても防犯にしても、本当に取組みとしては、一番大切な取組みじゃないかなと思いますけど、ただ正解というのが、ないので、想定される部分というのがないので、いざとなったときにどう対応するかといった一番難しい問題で、それが先ほどの皆さん、ご指摘されていた部分じゃないかなというふうに思っています。ですから防災訓練にしても、避難所開設訓練にしても、いろんなやり方があると思うんですけども、いざというときに、どうそれが役に立つのかということで、やっていかなあかなと、この前話をしていました。危機管理室とか本庁の方からは、こんなマニュアルでみたいなのがあるんですけども、それが本当にどうなんやろなという目線で、別にそれ変えていってもいいと思いますし、実際、事が起こったら、超法規的にやらなあかん部分もあると思うんで、そんなことも踏まえて、どうするかなというのが、本当に皆さんの中の意見を聞いてやっていかなあかんと思った次第です。

田中委員、別の話で、種花のことをおっしゃっていましたが、緑地の方につくったというのは、それは一つのステップアップなんですけども、次その皆さんの負担を、ほなどう軽減するかというのをね、やっていくというのが次の課題なんで、そういう意味で、課題は次々と出てくると思うんですけども、また皆さんのご意見を参考に一つずつ、解決して乗り越えていきたいと思えます。

本当に2年間、ありがとうございました。

○宗宮部会長 最後に部会長という場におらしてもらって、田中さんにも、山下さんにも、大変お世話になって、ありがとうございました。本当にいい体験させていただいて、ありがたかったと思えます。

○前田地域活動支援課担当係長 事務連絡の続きを、また6月に実施いたしました区政会議におきましても、ご協力いただいたところではございますけれども、平成29年度の8月に策定いたしました大阪市政改革プラン2.0の区政編に基づきまして、大阪市の統一様式によりますアンケートを実施することが必要となりました。再度、お手数をおかけすることとなり、大変申しわけございませんが、本日ご記入の上、お帰りいただけたらと存じます。よろしく願いいたします。

ありがとうございました。

○宗宮部会長 ありがとうございます。

終わります。どうもありがとうございました。

閉会 20時36分